

戸田から全議員への7・21重要伝達

2011年7月21日(木)

門真市議会議員 各位 (会派と議長へ配布)

門真市議会議員 戸田ひさよし (無所属・鮮烈左翼)

- 1 : 7/25(月)午後1時開催の、第1回「議会改革協議会」(座長：公明党の平岡議員)については、当初、私の盟友である元加古川市議の井筒君の09年不当弾圧事件の判決公判が11時から神戸地裁であるため、それを傍聴に行き、30~40分程度遅れるが参加する。としていましたが、後日、公判自体が12時までかかりそうである事と、その後記者会見を行ない、総括集会を1時半から始める事が分かりました。同君は弾圧の影響で昨年6月の市議選で落選し、現在は東京に住んでおり、めったに会うことが出来ませんし、私が同君の救援会の呼びかけ人にもなっている責任もあり、判決後の会合に最後まで参加する事を選択する事にしました。従って、7/25(月)午後1時開催の「議会改革協議会」については欠席にやむなきに至りました。
- 2 : また、私にとって懸案であった「原発被災地への支援と視察」に関して、当方の日程として7月末から8月冒頭に行くしかなさそうだと考えておりましたが、やはり7/27出発~8/3深夜帰阪の日程となりましたので、まことに残念ですが、
 - ・7/28(木)夜の、吉水議員呼びかけの、門真市では画期的な「全議員と理事者の任意の懇親会」、と
 - ・8/1(月)の第2回「議会改革協議会」、については、これも参加することが出来なくなりました。
- 3 : 以上は、当方の日程の結果として不本意ながら不参加の止むなきに至ったものですが、しかし、その前の段階において、いずれの行事においても、私が紛れもなく門真市議会議員の一員であるのに、私に対してだけ、日程都合の問い合わせが全くなされないという、非礼非常識な仕打ちに関しては、強く非難し抗議するものです。
- 4 : 「議会改革協議会」は、「議会改革を真剣に考える議員が、超党派的に、任意に参集して自由に忌憚なく意見を交わして改革を具体的に検討する」ものとして結成する事が、会派代表者協議会→7/12議運で決定され、無所属議員である私も、「オブザーバー」という不当に軽い地位であるとは言え、そのメンバーに入っているのです。それならば当然、議運直後の7/12に協議会開催日程を諮る時に、私にも日程都合の問い合わせがあつて然るべきなのに、私には何の問い合わせもなく一方的に開催日程が決められてしまいました。「議員と理事者の任意の懇親会」に関しても、呼びかけ人の吉水議員は、全部の会派に日程都合を問い合わせたのに、私に対してだけは一言の問い合わせもせずに開催日を決めてしまいました。
- 5 : 「これからは過去の対立に拘泥せず、分け隔てなく全議員が自由闊達に語り合う雰囲気醸成して、議会改革を進めよう」と言われる中で、どういう神経を持てば、このような「議員の中で戸田だけ除け者」の仕打ちが出来るのか、平岡座長や吉水呼びかけ人がこれではなぜ平然としていられるのか、私には到底理解できません。議員である以前に、およそ社会人として非礼・非常識に過ぎるでしょう。今の大多数の議員がこれを良しとしているとは思いたくありませんが、こういう子どもでもやらない恥ずべき事象が門真市議会で起こっている事に対して、それぞれに責任と恥ずかしいという感覚を持ってもらいたいものです。
- 6 : 「議会の単位は会派だ。不満があるならお前も会派を作れ」という論で無所属議員の排除差別を正当化しようとするのであれば、「あんたら、そんな違法な論議を市民の前で語って賛同を得られると思ってますか?」、と問い質したく思います。何党支持であれ、そんな事に賛同する市民がどこにいますか?
 - 一人一人が選挙で選ばれる議員は、みな議員として対等平等なのであって、「会派」は法的に全く無効な、「任意のお仲間集団」に過ぎず、「議会の単位は会派だ」論は自治体議会の一部での不当な慣習論でしかありません。たった22人の議会で「全員が集まったら収集がつかないから会派での取り決めが必要」だとすれば、議員は小学生にも劣ることになってしまいます。小学生は35人学級でもちゃんとクラス討論して物事を決めれますから。「議員全部を拘束する取り決めをするに際して、無所属は協議に加えない」事を正当と考えているとすれば、「影響を受ける当事者を排除して物事を決めてはいけない」という、民主主義のイロハも知らない事になります。「一般市民より高い見識を持つ者」として「選良」と呼ばれる議員が、それで良いのでしょうか?
- 6 : また「オブザーバー」と言えば、普通は「議決には参加出来ないが議題ごとに発言は出来る」ものですが、この「議会改革協議会」では、「冒頭に3分程度だけ発言出来る」だけであり、しかも「当方だけを排除して一方的に決

められた日程のために、当方が途中からしか参加出来ない」場合でも、「途中発言は許さず意見書提出だけ認める」と座長が私に通告して来るなど、わざわざ私に「意地悪をする」に等しい対応をしてくれています。

こんなものを「忌憚のない意見交換の場でのオブザーバー」と呼ぶ事が、社会で通用するとお考えでしょうか？

7：今般私は、大局的・融和的な見地から、「非公式非公開の会派代表者協議会で議会改革協議会の骨子を定める」件も、「冒頭3分程度発言のみのオブザーバー」の件も、「協議内容を公表しない」件も、あえて了承してきましたが、それは決して、これほどまでに非礼な差別排除の仕打ちを受けることまでも了承したのではありません。

「礼に対しては礼で応え」ますが、「非礼な差別排除に対しては抗議と糾弾で応える」事を明言しておきます。

8：差し当たっては、「議会改革協議会」の第3回以降の日程を決めるに際して、8/1の協議会で決定するのであればやむを得ませんが、もしそうでないのならば、必ず私の日程都合を問い合わせる事を求めます。

結果として私の都合に合わない日程が一部生じる事は了解しますが、私にだけ問い合わせをせずに第3回以降の「議会改革協議会」日程を決めることは断じて承服しません。

9：また、「ほんの小指ほどの改善」たる「議事テープのダビング許可」（それも、市民は不可で発言議員本人分のみという限定的なもの）が最近、「議長への申請一許可」という形で行なわれて、「ささやかだが着実な一歩改善」と喜んでいたら、日高議長から「会派代表者会での同意無しにネットでの公表はするな」、と言われて冷水を浴びせられるという事件が7/19にありました。

事の本質は「議会の情報を市民に伝える」努力と労力に対する、何の正当性もない妨害であり、市民の「知る権利」に対する敵対であり、私に対する嫌がらせとしか思えません。

「議会審議の様子をネット中継していこう」という話が与野党問わずに言われ出して来たこの時期に、なぜこのような事を議長がするのか、一体議長はどこを向いているのか、理解に苦しみます。

苦節12年を経てようやく私が7/19(火)に得たダビングテープ音声は、断固として即日ネットにアップしました。

私のこの情報公開行為が、他の議員のみなさんから非難される事にはならないと信じたところです。

私は「穏和に対しては穏和で」応えますが、「不当な嫌がらせや妨害に対しては断固たる闘争で」応える事を、改めて明らかにしておきます。(忘れた人や知らない新人もいるでしょうから)

10：今回、私にとっては極めて残念ながら、7/25第1回「議会改革協議会」も、7/28「議員・理事者懇親会」も、8/1第2回「議会改革協議会」も、門真市の議会改革の重要な滑り出し企画は、全て私抜きで開催される事になるのですが、考えてみれば、それはそれで良いのかもしれない。

私以外の会派議員にしても、今まで「自由に忌憚無く話できる」機会があったわけではないようですから、「まずは戸田抜きで自由に忌憚無く話す」機会を3回体験し、それを経てから「戸田も入れて話をする」ようにした方が、みんなが「肩の力を抜いて忌憚無く」話が出来るようになって、良い結果を生むようにも思えてきました。

私も、昨日までの事は過ぎ去った事と割り切って、福島から帰った時に次の協議会日程の都合問い合わせがあつて、気持ちよく話が進む事に期待しておきます。

11：本日私は早朝から夕方まで、高槻市での「近畿市民派学習交流会」に参加してきますが、そこでは「20市ほどの議会だよりの比較分析」も題材に取り上げられ、資料も配付されますので、7/25(月)の第1回「議会改革協議会」への「戸田意見書」については、それを主として取り上げてみなさんへの検討材料として提供しようと思います。

7/22(金)夕方か7/25(月)の早朝に提出しますので、ご期待下さい。

12：最後に、今どれほど議会・議員に対する不信や逆風が吹き荒れているか、我々議員は全員が強い危機感を持たなければいけません。市の各種の企画に参画して、市のあるべき全体像・将来像を真剣に考え討議している見識ある市民達と公開の場で討議出来る中身と能力を、当然の事ながら持たなければいけません。

もういつまでも「議会ムラ」の外では論議できない「内弁慶」が通用する時代ではないのです。

無所属だから排除されて当然だとか、会派の了承無しに議事テープをネットアップするな、とかの「たこ壺の中の論議」は、黒船が来ている時に「普代だ、外様だ」と格式論議をしているに等しい、愚かで自滅的な話です。

議員が絶対に忘れてはならないポイントは、「自分はそれを市民前で胸を張って言える事なのか」という事と、「自分はその論点で見識ある市民達と公開の場で論議出来るのか」、という事です。

これが満たせないような、「議会ムラ」の中でしか通用しない内輪だけの論理に固執するのはもうやめましょう。

そして貪欲に、謙虚に学習と研鑽を重ねましょう。

市民の前で「それなりに高額な報酬を得る専門職たる議員」にふさわしい人間として胸を張れるように。